

平成25年度第4回森林^{もり}の未来を考える懇談会資料

全国植樹祭福島県準備委員会の 検討状況について

- 全国植樹祭福島県準備委員会の概要
- 全国植樹祭について
- 全国植樹祭の開催スケジュール

平成26年3月25日

福島県 農林水産部 森林計画課

全国植樹祭福島県準備委員会の概要

森林保全課

1 委員会の目的

本県では、昭和45年に猪苗代町において第21回全国植樹祭を開催した。

また、平成17年に「森林文化のくに・福島県民憲章」を制定し、県民一人一人が参画する新たな森林づくりに取り組むなど、県勢の発展とともに、森林林業の振興と緑化推進に努めてきた。

しかし、東日本大震災と原発事故により、森林整備や林業生産活動、森林づくり活動が停滞するなど、本県の森林は大きな影響を受けている。

全国植樹祭福島県準備委員会では、復旧・復興に向け力強く歩み続ける県民の姿を全国に発信するとともに、緑豊かな県土を再生し、豊かな森林を守り育て、次の世代に引き継いでいくため、平成30年に招致を目指している全国植樹祭について、基本構想の策定や植樹祭の開催候補地の選定などを行う。

2 森林づくり検討委員会での検討と提言（平成25年6月11日～12月20日）

震災からの復旧・復興の一翼として、森林づくりに関する県民運動の浸透・拡大を図るため、森林づくりの推進方策やシンボルイベントとしての全国植樹祭開催のあり方、企業やボランティアなど県民参加型の森林づくりの推進と強化について3回の委員会を開催して検討し、次世代が主役となる30年後の姿を念頭に置いた森林づくりの提言を行った。（平成25年12月20日）

3 準備委員会のスケジュール

- ・全国植樹祭福島県準備委員会を設置し、平成26年1月30日に第1回準備委員会を開催。全国植樹祭の招致の背景や、準備委員会の開催スケジュール等について確認。
- ・平成26年3月27日に第2回準備委員会を開催し、基本構想の方向付けや開催候補地の条件の検討を行う。
- ・合計5回の準備委員会を開催し、平成26年度中に基本構想を策定する予定。

4 準備委員会構成メンバー

学識経験者、林業関係団体、各種団体等、市町村、県関係課の合計36名。

詳細は別紙「全国植樹祭福島県準備委員会名簿」のとおり。

5 第1回準備委員会での意見

- ・農地も宅地も、森林があったおかげで震災と原発事故の影響が軽減されたと聞く。本県の全国植樹祭の視点や取組として、その森林への感謝を入れてはどうか。
- ・植樹した後、周辺の森林も含めた管理をどのようにしていくのかの議論が必要。全国植樹祭を契機に全国に発信し、世界に誇ることのできる日本の森林を作っていく。
- ・メイン会場は防潮林で、サブ会場が「県民の森」だったり、猪苗代町だったり、そのように会場を設定してもらおうと、福島県は広いので県全体でイベントをやっていると感じられると思う。

全国植樹祭福島県準備委員会名簿

区分	氏名	所属	役職名	備考
学識者 (2名)	菊池 壮蔵	福島大学経済経営学類教授	大学教授	
	谷本 丈夫	宇都宮大学名誉教授、NPO法人日本樹木育成研究会理事	大学名誉教授	
林業関係 団体 (10名)	浅和 定次	(公社)福島県森林・林業・緑化協会会長	会長	
	宍戸 裕幸	福島県森林組合連合会	代表理事専務	
	宗形 芳明	福島県木材協同組合連合会	専務理事	
	渡辺 卓治	福島県農林種苗農業協同組合	専務理事	
	飯束 昭三	(公財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団	副理事長	
	蛭田 一	福島県林研グループ連絡協議会	会長	
	緑川 平寿	福島県指導林家連絡協議会	会長	
	斎藤美津子	NPO法人福島県もりの案内人の会 広報部長	広報部長	
	木田 都城子	福島県樹木医会	理事	
	鈴木 裕子	農林業、森林づくり検討委員会委員	委員	
	各種団体等 (13名)	大川原 公年	社会福祉法人福島県社会福祉協議会	事務局長
田崎 由子		福島県消費者団体連絡協議会	事務局長	
佐藤 精寿		福島県旅館ホテル生活衛生同業組合	事務局長	
石井 浩		福島県商工会議所連合会	常任幹事	
服部 淳子		福島県商工会女性部連合会	会長	
鈴木 文男		(公財)福島県観光物産交流協会	常務理事 兼事務局長	
菅野 秀夫		全国農業協同組合連合会福島県本部	管理部長	
川上 雅則		福島県農業協同組合中央会	参事	
渡辺 浩明		福島県漁業協同組合連合会	指導部次長	
佐川 泉		福島県内水面漁業協同組合連合会	代表理事会長	
高木 明義		(社)福島県建設産業団体連合会	専務理事	
林 博行		(公財)福島県都市公園・緑化協会	常務理事	
酒井 美代子		福島県建築士会女性委員会	副委員長	
市町村 (3名)		佐藤 幸英	福島県市長会	事務局長
	安田 清敏	福島県町村会	事務局長	
	開催候補地副市町村長	開催候補地市町村	副市町村長	開催候補地選定後
県 (8名)	畠 利行	農林水産部	部長	(委員長)
	阿部 雅人	知事公室広報課	課長	
	佐藤 弘美	文化スポーツ局文化振興課	部参事兼課長	
	新関 勝造	生活環境部自然保護課	課長	
	金子 隆司	観光交流局観光交流課	課長	
	杉 明彦	土木部土木企画課	部参事兼課長	
	飯村 新市	教育庁義務教育課	課長	
	鈴木 美紀夫	警察本部警備部警備課	課長	
計	36名			

※ 委員は必要に応じ追加する。

全国植樹祭について

○目的

国土緑化運動の中心的な行事として、国民の森林に対する愛情を培う

○歴史

昭和25年から開催、第1回開催テーマ「荒れた国土に緑の晴れ着を」

第1～20回「植樹行事並びに国土緑化大会」

第21回福島県開催を契機に「全国植樹祭」

○特徴

主催は開催県と（公社）国土緑化推進機構
毎年「行幸啓」がある



昭和45年 福島県で開催された
「第21回全国植樹祭」

昭和45年5月19日

(テーマ「後継者の森」、参加者22,300人)

現在の全国植樹祭会場(猪苗代町)
公の施設「昭和の森」として
県が管理

自然観察を楽しむ子どもたち
(平成25年7月)



招致の背景 (1)

○震災・原発事故

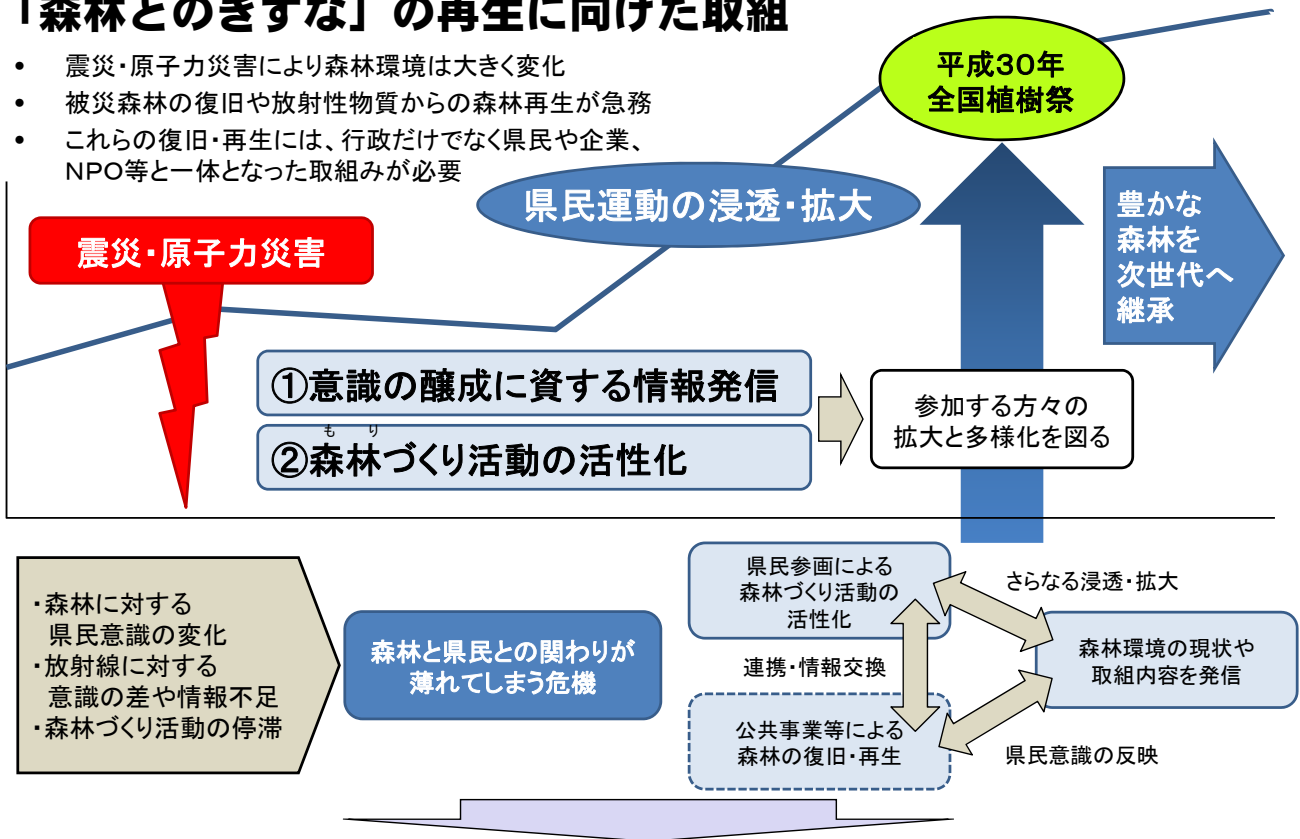
平成23年3月11日に東北地方太平洋沖地震が発生し、地震に伴う巨大津波が浜通り沿岸を襲った。また、津波に伴い引き起こされた福島第一原子力発電所事故により、大量の放射性物質が放出され、多くの県民が避難を余儀なくされている。

○森林づくり活動への影響

震災における津波や原発事故による放射性物質の影響を受けた森林は、県民から「近づいてはいけない場所」とイメージされるようになり、森林内での森林づくり活動や森林環境学習の場としての利用が停滞した。

「森林とのきずな」の再生に向けた取組

- ・ 震災・原子力災害により森林環境は大きく変化
- ・ 被災森林の復旧や放射性物質からの森林再生が急務
- ・ これらの復旧・再生には、行政だけでなく県民や企業、NPO等と一体となった取組みが必要



復興に向けて歩み続ける県民の姿と森林の再生を全国に発信

招致の背景 (2)

○森林づくり活動推進についての提言

大震災と原発事故等により森林づくり活動や森林文化の継承が危機的状況となったことから、次世代が主役となる30年後の姿を念頭に、平成25年12月、森林づくり検討委員会が県に森林づくり活動推進についての提言を行った。

○ふくしま新生プラン(福島県総合計画)

「全国規模の復興イベントの開催に関する取組」

県民の心の支えとなることや復興に力強く歩み続ける県民の姿を全国に発信するとともに、緑豊かな県土を再生し、豊かな森林を守り育て、次の世代に引き継いでいくため、全国植樹祭を招致する。

近年の開催状況と今後の予定

開催年	大会回数	開催地
H22	第61回	神奈川県(南足柄市、秦野市)
H23	第62回	和歌山県(田辺市)
H24	第63回	山口県(山口市)
H25	第64回	鳥取県(西伯郡南部町)
H26	第65回	新潟県(長岡市)
H27	第66回	石川県(小松市)
H28	第67回	長野県
H29	第68回	富山県(内定)
H30	第69回	福島県(招致中)

各県、工夫を凝らした「県民参加運動」を展開し、開催前から開催気運の醸成を図っている。

平成25年 第64回全国植樹祭（鳥取県）

参加者数

7,000人

・招待者

4,770人

・スタッフ・出演者

2,230人



第64回全国植樹祭ロゴ



シンボルマーク「トッキーノ」



「とっとり花回廊」
（鳥取県立フラワーパーク）

植樹活動

とっとり花回廊いやしの森（西伯郡伯耆町）



○ 約4,500本を植樹。

イヌシデ、エノキ、クリ、コナラなど四季の彩りを感じられる森や多様な生き物が生息する森等を造成するための樹種を選択。

記念式典

東日本大震災復興支援



とうほくとっとり森の里親プロジェクト

鳥取県が岩手、宮城、福島の被災3県からコナラやケヤキなどの広葉樹の種子を預かり、鳥取県内の小学生や苗木生産者が育て、寄贈するプロジェクト。

式典では、苗木の目録を鳥取県的美鳥(みどり)の大使から3県の代表者へ授与された。

関連行事（1日目）

全国林業後継者大会

○目的・歴史

全国の林業者が一堂に会し、森林づくりの重要性や林業の担い手としての役割について意見を交わすことを目的に、昭和45年より、全国植樹祭の併催行事として開催されている。

○主催

全国林業研究グループ連絡協議会、開催県の林業研究グループ連絡協議会、開催県、（開催地市町村）。

○内容

有識者による基調講演、学校や林業団体による活動発表、パネルディスカッションなど

関連行事（2日目）

全国植樹祭応援イベント



テーマ ～「ここでも植樹祭！みどりと食の広場」～

JR米子駅前「だんだん広場」において、全国植樹祭のパブリックビューイング、苗木無料頒布会、食のテント村等を設置（主催：米子市観光協会）

全国植樹祭プレイイベント

鳥取県の事例



第64回全国植樹祭プレ植樹祭

前年に式典・植樹会場となる「とっとり花回廊」において開催。
毎年県等で主催している「鳥取県植樹祭」をプレイイベントとして位置付け。
代表植樹・播種のほか、緑の少年団による発表や山や木の形を音符に置き換え、
式典音楽を作曲する採譜体験が行われた。

全国植樹祭イベント

福島県の計画



苗づくりのイメージ



植樹活動のイメージ

5年前

- ・招致に向けた意識醸成
- ・うつくしま育樹祭でのPR(実施済み)

4年前

- ・招致に向けた意識醸成
- ・内定イベント・ミニ植樹祭・苗木の育成

3年前

- ・テーマや実施地域に応じたイベントの開催
- ・苗木の育成

2年前

- ・県民参加の植樹祭の開催
- ・学校や職場などでの苗木の育成

1年前

- ・プレ植樹祭
- ・カウントダウンセレモニー
- ・全国へのPR活動

全国植樹祭の開催スケジュールについて

平成30年全国植樹祭開催全体スケジュール(想定)

業務区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
○申請手続		○申請・内定(5-8月)	○決定(8月)			
○組織体制 準備委員会、準備室、 庁内等連絡会議、実行委員会、 運営本部	○準備委員会	○庁内等連絡会議	○実行委員会 ○植樹祭準備室(想定)		○運営本部	
○基本構想等策定 基本構想、基本計画、 実施計画	○基本構想		○基本計画	○実施計画		
○開催実務 開催方針、開催規模・内容、開催 テーマ、シンボルマーク、ポスタ ー原画、式典行事計画、植樹行事 計画、行幸啓等準備	○規模・候補 地・内容 検討	○テーマ案の検討	○シンボルマーク・ポ スター原画検討 ○式典行事・植樹行事計画 ○行幸啓検討			
○会場整備 式典会場(お野立所他)、サイン・ 木製ベンチ等付帯施設整備			○会場整備		○サイン・ベンチ等整備	
○運営計画 全体計画、招待者・参加者計画、 衛生・防災・警備、雨天・災害時 対応、宿泊・輸送、レセプション 等			○全体計画 ○招待者・参加者計画	○衛生・防災・警備 ○宿泊・輸送		○レセプション
○広報・PR活動 広報キャラバン、プレイベント	○プレイベント	○プレイベント	○プレイベント	○広報キャラバン ○プレイベント	○プレイベント	
森林(もり)づくり県民運動の展開						
地方植樹祭、苗木のホームステイ ・スクールステイ		○地方植樹祭他 ○苗木のホームステイ ・スクールステイ				
○関連イベント 林業後継者大会						○林業後継者大会

平成30年全国植樹祭開催スケジュール(想定)

項目	25年度(H26.1~)	26年度(4年前)	27年度(3年前)	28年度(2年前)	29年度(1年前)	30年度
福島県	準備委員会 (H26年1月30日 設置)	準備委員会 設置				
	実行委員会 (H27年4月設置)	開催候補地の選定 → 開催県申出 → 基本構想策定	基本計画策定	実施計画策定		全国植樹祭(春頃) 実行委員会(最終)
国土緑化 推進機構		開催県内定 → 理事会 (8月)	開催県決定 → 両者協議のうえ、 開催会場決定 → 副理事長 来県 → 理事会 (8月)	基本計画決定 → 特別委員会 (2月)	開催日決定 → 総会 (8月) 実施計画決定 → 特別委員会 (2月)	